

【今日の説教から】

シナイ山にてモーセに主なる神様は現れ、彼に使命をお与えになりました。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し…」しかしモーセは初めにはためらい恐れて言いました。「ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」そこで神様は言われました。

「だれが人に口を授けたのか。話せず、聞えず、また、見え、見えなくする者はだれか。主なるわたしではないか。それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう」

そして彼はついにエジプトの王の前で「我が民を去らせよ」と語ります。

心をかたくなにするエジプトの王を前に神様は九つの災いを下されます。

それでも王がかたくなであるのを見て主は初子の死を定められます。人の罪はどこまでも深くて底知れぬものです。まことに「罪の支払う報酬は死」です。しかし主は「これは主の過越の犠牲である」という子羊を用意してくださいました。主は重々しい人の罪のため贖いを用意して、その裁きから「イスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われた」のです。

スザン先生からのメッセージです。

皆さんの教会、家、家族の一員として迎えてくださったことに感謝いたします。皆さんの温かさと親切にも感謝いたします。

皆さんのサポートのおかげで、私たちはこの地で宣教活動を行い、庄原に教会を設立することができました。

皆さんが私たちを励ましてくださったように、私たちが皆さんを励ますことができればと願っています。皆さんの地域社会や職場の人々に、神の救いの恵みの良き知らせを伝えることができるよう。皆さん一人ひとりが神と個人的な関係を持つこと以上に重要なことはなく、魂を滅びから救うこと以上に重要なことはありません。そして、皆さん一人ひとりが、その目的のためにまさにふさわしい場所に置かれているのです。

リン牧師と私がイエスについて伝えるために各家庭を訪問しても、多くの人が留守です。彼らは皆さんの目の届く場所におられるかもしれません。そして、神は私たちでは届かない人々に届くよう、皆さんを使われるでしょう。

どうか、親切で愛に満ち、惜しみないあなたのやり方を続けてください。そうすれば、あなたの周りの人々の心が柔らかくなり、イエス・キリストが十字架上で死なれ、復活されたという福音を受け入れる準備ができるでしょう。そして、キリストを信じ、従う者は皆、永遠の滅びから救われ、天の父と共に永遠に生きることができるでしょう。

1年間庄原で伝道してくださいましたスーザン先生、そして長崎で伝道していらっしゃいます佐々木先生ご夫妻、本当に尊いご奉仕をありがとうございます。
時にご不便やもどかしい思い、苦しみや悲しみがおありだったと思います。

主なる神様は、エジプトでの民の叫びに耳を傾けていてくださいました。

3:4 主は彼がきて見定めようとするのを見、神はしばの中から彼を呼んで、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼は「ここにいます」と言った。

3:5 神は言われた、「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」。

3:6 また言われた、「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。モーセは神を見るることを恐れたので顔を隠した。

3:7 主はまた言われた、「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。

3:8 わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し、これをかの地から導き上って、良い広い地、乳と蜜の流れる地、すなわちカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとのおる所に至らせようとしている。

3:9 いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。

3:10 さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」。

神様は私たちの苦しみを残らずご覧になられ、知っておられます。私たちの不出来も罪深さもご存じで、忍耐強く恵み深く私たちを導き、救い出してくださいます。主がせっかく民の救いのためにモーセを召されたのに、その神様の深い御旨に感動して身を挺して…というよりは、モーセは自分自身を見て、自分自身の弱さを見てしり込みし、神様の素晴らしさと完全なご計画への信頼を発揮することが出来ませんでした。そういう点ですごく私たちは共感の思いが沸くのですが、私たちに重要な教訓を聖書は示しています。

3:11 モーセは神に言った、「わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか」。

3:12 神は言われた、「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えるであろう」。

3:13 モーセは神に言った、「わたしがイスラエルの人々のところへ行って、彼らに『あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と言うとき、彼らが『その名はなんというのですか』とわたしに聞くならば、なんと答えましょうか」。

3:14 神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。

4:1 モーセは言った、「しかし、彼らはわたしを信ぜず、またわたしの声に聞き従わないで言うでしょう、『主はあなたに現れなかった』と」。

4:2 主は彼に言われた、「あなたの手にあるそれは何か」。彼は言った、「つえです」。

4:3 また言われた、「それを地に投げなさい」。彼がそれを地に投げると、へびになったので、モーセはその前から身を避けた。

4:4 主はモーセに言われた、「あなたの手を伸ばして、その尾を取りなさい。——そこで手を伸ばしてそれを取ると、手のなかでつえとなつた。——

4:5 これは、彼らの先祖たちの神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、あなたに現れたのを、彼らに信じさせるためである」。

4:6 主はまた彼に言われた、「あなたの手をふところに入れなさい」。彼が手をふところに入れ、それを出すと、手は、らい病にかかって、雪のように白くなっていた。

4:7 主は言われた、「手をふところにもどしなさい」。彼は手をふところにもどし、それをふところから出して見ると、回復して、もとの肉のようになっていた。

4:10 モーセは主に言った、「ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」。

4:11 主は彼に言われた、「だれが人に口を授けたのか。話せず、聞えず、また、見え、見えなくする者はだれか。主なるわたしではないか」。

4:12 それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう」。

4:13 モーセは言った、「ああ、主よ、どうか、ほかの適當な人をおつかわしください」。

神様はこのしるしをも、あのしるしをも備えて、モーセを励まし、彼と共にいつもおられる

という事を語られ、励まされたが、モーセの腰の重いことを何度も何度も見るにつづけ、人間とはどうしてこうも臆病なのだろうかとうんざりするような思いがいたします。しかしそういう臆病で猜疑心が強く、神様が力強く守っていてくださることが目の前に示されているにもかかわらず、未だ臆病と怠惰に苛まれ、苦労したくなくて危険にさらされたくないう心はまさしく私たちの心そのものなのではないでしょうか。世界に威光を放つエジプトの王と渡り合い、魔術師たちと戦い、おびただしい民を引き連れて紅海を渡り、軍馬を退けた、あのモーセとて、やはり私たちと同じ一人の人間でした。いかに神様が私たちと共におられ、偉大なる御業を成してくださるのでしょうか。そこに刮目し、期待して神様の御業を私たちのうちに頂く、それが私たちの信仰人生のすべてです。神様の前で「わたしは、いったい何者でしょう」と問う必要は全くないのです。「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。」「だれが人に口を授けたのか。…主なるわたしではないか。」この神様が、ガリラヤ湖の嵐を凧とし、水の上をも歩かせる神様が私たちと共におられる。これが私たちのための、私たちの力と喜びの最大のしるしです。

さて、こうしてモーセはアロンと共にエジプトの王の前に出て、主のお導きの中、九つの災いがエジプトに現わされました。それでも王の心はかたくなでした。そして最後の死の災いが訪れるのです。

私たちは、どうしてこんなにも繰り返し災いが起こるのにどうして王はそこまでも心をかたくなにして、その結果として自分を守れず民をも家畜をも守れなかったのだろうかと思議に思います。プライドなのか、怖いもの知らずだったのか、鈍感なのか、不精なのか、怠惰なのか…しかしそれが人の現実なのではないでしょうか。悔い改めのチャンスがせっかくあるのに、改善の、救いのチャンスが幾度も幾度もあるのにそれを生かすことが出来ない。そしてその人生の的外れの罪は、神様の御心に背き続ける罪は、高じて死につながっていくのです。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

そしてついにその時がやってきました。

12:1 主はエジプトの国で、モーセとアロンに告げて言われた、

12:2 「この月をあなたがたの初めの月とし、これを年の正月としなさい。

12:3 あなたがたはイスラエルの全会衆に言いなさい、『この月の十日におのおの、その父の家ごとに小羊を取らなければならない。すなわち、一家族に小羊一頭を取らなければならない。

12:4 もし家族が少なくて一頭の小羊を食べきれないときは、家のすぐ隣の人と共に、人数

に従って一頭を取り、おののおの食べるところに応じて、小羊を見計らわなければならない。

12:5 小羊は傷のないもので、一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから、これを取らなければならない。

12:6 そしてこの月の十四日まで、これを守って置き、イスラエルの会衆はみな、夕暮にこれをほふり、

12:7 その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならぬ。

12:8 そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならぬ。

12:9 生でも、水で煮ても、食べてはならない。火に焼いて、その頭を足と内臓と共に食べなければならない。

12:10 朝までそれを残しておいてはならない。朝まで残るものは火で焼きつくさなければならない。

12:11 あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。

主の過越です。これはやがて来る恐ろしい、初子の死という神様の裁きを過ぎ越すための贖いのいけにえでした。

神の民もまた、この羊のいけにえ無くしては死から免れることは出来なかったのです。

ローマ 3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもいない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもいない。

3:13 彼らののどは、開いた墓であり、／彼らは、その舌で人を欺き、／彼らのくちびるには、まむしの毒があり、

3:14 彼らの口は、のろいと苦い言葉とで満ちている。

3:15 彼らの足は、血を流すのに速く、

3:16 彼らの道には、破壊と悲惨とがある。

3:17 そして、彼らは平和の道を知らない。

3:18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

12:12 その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獸との、すべてのう

いごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。

人の罪のゆえに、本来罪はないはずの家畜や獸に至るまで裁きを受けるようになってしまった。

ローマ 8:18 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。

8:19 被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。

8:20 なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、

8:21 かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。

8:22 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。

12:20 あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにおいて種入れぬパンを食べなければならない』」。

12:21 そこでモーセはイスラエルの長老をみな呼び寄せて言った、「あなたがたは急いで家族ごとに一つの小羊を取り、その過越の獸をほふらなければならない。

12:22 また一束のヒソップを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。

12:23 主が行き巡ってエジプトびとを擊たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、擊つのを許されないであろう。

12:24 あなたがたはこの事を、あなたと子孫のための定めとして、永久に守らなければならない。

12:25 あなたがたは、主が約束されたように、あなたがたに賜る地に至るとき、この儀式を守らなければならない。

12:26 もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、

12:27 あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを擊たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』。民はこのとき、伏して礼拝した。

さて民は、主がおっしゃったように子羊の血をとって過ぎ越しの備えをしました。この儀式の意味は、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを擊たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』という事でした。

主はその民を苦しめるエジプトを打って、ご自身の信仰に属する民を、その罪から助け、贖ってくださいます。しかし先にもお話しました通り、神様の民であるイスラエルもまた罪赦されなければならない民でした。エジプト人とイスラエル人、この両者を隔てているものは、身柄が整っているとか、理解が多いとか、清いとか、行いが良いからというものではありません。神様の恵に寄りすがるのか、それとも寄りすがらずに自分の思いを通すのかという事なのです。民はそれを知って神様のただ万全の恵みを前にして恐れかしこみ、ひれ伏しました。

主と主の贖いを知らない、それを拒絶する者たちへの結末は恐ろしいものでした。そして彼らはついに神様に屈服したのです。

12:28 イスラエルの人々は行ってそのようにした。すなわち主がモーセとアロンに命じられたようにした。

12:29 夜中になって主はエジプトの国の、すべてのういご、すなわち位に座するパロのういごから、地下のひとやにおる捕虜のういごにいたるまで、また、すべての家畜のういごを擊たれた。

12:30 それでパロとその家来およびエジプトびとはみな夜のうちに起きあがり、エジプトに大いなる叫びがあった。死人のない家がなかったからである。

12:31 そこでパロは夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った、「あなたがたとイスラエルの人々は立って、わたしの民の中から出て行くがよい。そしてあなたがたの言うように、行って主に仕えなさい。

ここには莊厳なる厳肅なる出来事が記されています。

先にもモーセの臆病について触れましたが、私たちは何によって生きるのかという事が問われています。私たちはつい自分自分と自分を中心に考えては、困難の中に立ち尽くして前に一步も進むことが出来ない時がありますが、そんな時に自分の思いのまま出て行ってしまうのですが、しかし私たちには責めることなく私たちを包み込み、私たちを力強い手で支え、大きな代償を支払って私たちを愛して惠んで、支え導いてくださるお方がいらっしゃるのです。私たちはこのお方の尊い御子の犠牲の血潮によって、命によって、神様の目に正しいものとして頂けるのです。主の十字架のお苦しみを思い、その子羊イエス様の犠牲は、わが罪のためですと正直に素直に告白し、尊い贖いの賜物にあずかり、清めを頂き、赦しを頂き、神様の用いられる器として、我が民を去らせよと、モーセが語ったように、イエス様による罪からの救いと永遠の命への開放を語り継げたいと願うのです。

ローマ 3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

3:24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認めら

れるのです。

3:25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。

3:26 それは、今の時にご自身の義を現すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。

3:27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行いの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。

3:28 人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考え方です。

3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。

3:30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

「これが主の過越の犠牲である」との主の恵みに感謝いたします。エジプトの王の、度重なる主の下される災いにもかかわらず、どうしてそこまでも心をかたくなにして神さまの前に罪を犯すのかとあきれる思いがしますが、それは私たちの神様の前の私たちの頑固さをも示しています。しかしあなたは贖いの子羊の命と血潮をもって「イスラエルの人々の家を過ぎ越し、我々の家を救われた」と語らせてくださいました。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン